

---

## はじめに

和田 壽弘

名古屋大学大学院文学研究科長

「魅力ある大学院教育イニシアティブ」によるプログラムとして「人文学フィールドワーカー養成プログラム」が2年間にわたり実施され、平成19年度に文部科学省よりの支援を受ける期間を終了しました。平成20年度には、「目的はほぼ達成された」という満足すべき事業評価を受けました。このことは、私たちのプログラムが大学院の教育内容に一定の実質的効果があったと認定されたものであり、私たちの方向性に間違いはなかったという自信をもたらしました。

「フィールドワーク」という概念を広く捉えることにより、これまでフィールドワークとは関わりがないと思われるような文献中心の研究分野の学生にも、研究室を飛び出して「文献の外の世界」に触れることにより、新たな研究の視点を提供したことは疑い得ません。学生によるこのようなフィールドワークが可能となるためには、プログラムを支える教員の真摯で不断の努力も見逃すことができません。フィールドワークに関わる教員とあまり関わってこなかった教員との共同作業も促進されたと実感しています。従って、本プログラムは学生のみならず教員の教育活動にも優れた影響を与えたものと言えます。

このプログラムの実施に併せて設置された「教育研究推進室」の活動も充実し、その「ワークショップ」には国内のみならず海外の研究者も講師に招いてFDを積極的に実施し、さらには本研究科教員にとって教育研究上の重要な意見交換や研鑽の場を提供しています。このように、「教育研究推進室」が設置された当初に予想していた活動を遙かに上回る実績を残しました。

「人文学フィールドワーカー養成プログラム」の成果は誇るべきものでありますが、一方で不安もあります。2年間の実施期間の後は、文学研究科の自前の経費でこのプログラムを継続していかなければならない点であります。しかしながら、本研究科に与えた影響の大きさから考えるならば、本プログラムを「教育研究推進室」の活動と連動させながら、その新たなページを開いていかなければならないと強く感じています。